

稲作情報 第6号



JA と な み 野 HP

令和5年7月5日
JAとなみ野米作改良対策本部
となみ野農業協同組合
砺波農林振興センター

- 斑点米カメムシ類は今年も管内の多くの地点で確認されています。斑点米発生防止のため、畦畔や雑草地の草刈りと本田防除を徹底しましょう。
- 早生品種の1回目防除は「穂揃期」に行い、2回目の防除は1回目から7日後を目安に、防除間隔を10日間以上あけないようにしましょう。
- 草刈りや防除作業時のケガや事故に備えて作業は複数名で行いましょう。また、熱中症予防のため、休息と水分をこまめに取りましょう。

1 早生の防除 (営農日誌P79~81参照)

防除時期の目安	対象病害虫	使用農薬(散布量 10a 当たり)		粒剤防除体系
		粉 剤	液 剤 [地上防除]	
穂揃期 (出穂後3日頃) 7月18日頃	いもち病 カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	ビームスタークル粉剤5DL (4kg)	ビームエイトスタークルゾル 1000倍液 (1500)	出穂10~15日前 フジワラップ粒剤 (3kg)
傾穂期 (出穂後10日頃) 7月28日頃	カメムシ類 イナゴ類 ウンカ類	キラップ粉剤DL (4kg)	キラップフロアブル 1000倍液 (1500)	穂揃期 スタークル粒剤 (3kg)
随時防除 傾穂期防除後	カメムシ類 ウンカ類 フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ	スタークル粉剤DL (3kg)	スタークル液剤10 1000倍液 (1500)	

- ・上記の防除時期は、田植日が5月1日頃、幼穂形成期が6月23日頃の「てんたかく81」で、出穂期が7月15日頃と予想されるほ場の目安です。
- ・防除は朝夕の風が吹いていない時間帯に行いましょう。

水田周辺にお住まいの皆さまへ

- ▶イネの病気や害虫を防除するため、早生品種では上記の時期に農薬を散布します。
- ▶農薬を散布する際は、周辺に飛散しないよう十分に注意しますが、散布期間中は洗濯物の部屋干しや窓閉め等でご不便をおかけします。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

2 コシヒカリの分施体系での穂肥 (営農日誌 P77~78参照)

- ・5月14日頃に田植えをしたコシヒカリの幼穂形成期は、7月11日頃になると予想されます。分施体系のほ場では、幼穂長と生育を確認して、適期に適量の穂肥を施用しましょう(裏面参照)。

表 コシヒカリの生育状況 (6月28日管内調査結果)

	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色	幼穂形成期 (月/日)
今年	5/14	50.2	518	10.4	4.3	7/11
昨年	5/13	58.3	543	10.8	4.3	7/7
近年(H25~R4)	5/13	54.5	536	10.7	4.3	7/9

表 コシヒカリの1回目穂肥施用時期〔幼穂長1.5cmの頃〕の生育と「追肥3号」による穂肥施用時期、施用量の目安

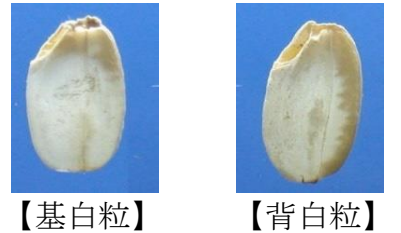
		適正		やや過剰	過剰
1回目穂肥施用時期の生育の目安		草丈 葉色 茎数	82cm 3.6 430本/m ²	85cm 3.8以上 460本/m ²	87cm以上 — —
1回目	施用時期 〔幼穂形成期が7月11日頃の場合〕	幼穂長1.5cmの頃 〔7月19日頃〕		幼穂長2~3cmの頃 〔7月21日頃〕	施用しない
	追肥3号(窒素15%) 施用量(kg/10a)	浅い田、普通田	10	5~7	
		深い田	8		
2回目	施用時期	1回目の7日後		1回目の7日後	生育状況に応じて施用
	追肥3号(窒素15%) 施用量(kg/10a)	浅い田、普通田	12~13	10	
		深い田	10		

- ・1回目の穂肥は、イネの幼穂長1.5cm頃の生育状況を確認して施用時期を判断し、土壌に応じた量を施肥しましょう。
- ・2回目の穂肥は、1回目穂肥の7日後を目安に必ず施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5へ誘導し、出穂後の稲体の活力維持を図りましょう。
- ・葉色が薄い場合(砂壤田:4.2以下、普通田・粘質田4.0以下)は、出穂3日前(走り穂の頃)までに「追肥3号」を5~7kg/10a施用しましょう。

3 コシヒカリの肥効調節型施肥体系での追肥 (営農日誌 P78参照)

- ・原則、追肥は不要ですが、今年も暑い夏が予想されています。出穂前7日前の葉色が4.0(浅い田は4.2)以下と薄い場合には、出穂直前に「追肥3号」を10a当たり5~7kg施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5(浅い田では4.5)へ誘導しましょう。

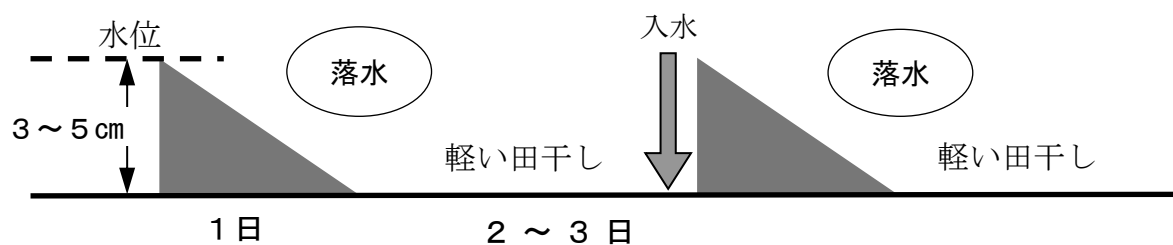
穂揃期の葉色が薄いと、基白粒や背白粒が増加します



4 幼穂形成期前後の水管理 (営農日誌 P81参照)

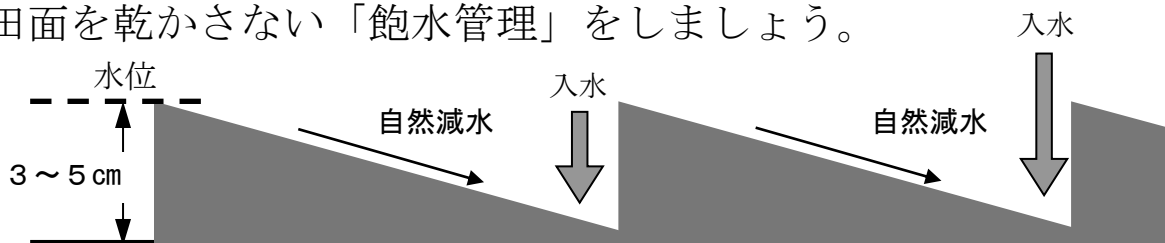
○幼穂形成期まで (間断かん水)

- ・「1日湛水、2~3日落水」の「間断かん水」を繰り返しましょう。



○幼穂形成期から出穂期まで (飽水管理)

- ・入水後、田面の足跡や溝に水が軽く溜まっている状態を保って、田面を乾かさない「飽水管理」をしましょう。



足跡に水が残る程度

ケガや事故の発生防止対策と、熱中症予防のための休息・水分を必ず取りましょう

【お問い合わせ先】

砺波農林振興センター	農業普及課 砺波班	32-8113
	経済部 生産企画課	32-8619
となみ野農業協同組合 einoubu@ja-tonamino.or.jp	資材配送センター あぐり館	32-5440
	稲種センター	82-0117
	農業機械センター	58-5520